

りんご生育情報(7月号)

令和3年7月16日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

HP <https://www.pref.miyagi.jp/site/tmnokai/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



1. 果実肥大状況

7月9日の「ふじ」果実肥大調査結果は表1のとおりです。果実の肥大は縦径、横径ともに平年並となっています。

表1 「ふじ」果実肥大調査結果
(東和町錦織, 単位 mm)

	本年	平年値	平年比%
タテ径	44.9	45.0	99.9
ヨコ径	50.0	47.8	104.6

2. 凍霜害の事後対策

管内で広範囲にわたって凍霜害による着果不良が確認されています。適正な樹勢の維持と病害虫対策のため、以下の管理を行いましょう。

①新梢管理

結実が少ない樹では新梢が強く伸びるので、徒長枝切りや芽かきを丁寧に行いましょう。園地内の日当たり改善や花芽分化、散布した農薬を隅々まで行き渡らせる観点からも有効です。

②着果管理

凍霜害により平年並みの着果量が確保できないときは、サビ果や変形果でも残し、樹勢のバランスを保つようにしましょう。

③薬剤散布

被害の大きかった園地でも、防除暦どおりの薬剤防除を行いましょう。

3. 今後の管理 -病害虫防除-

宮城県病害虫防除所による「みやぎの病害虫発生状況(7月12日発表)」によろると、表2のとおり、りんごの主な病害虫の発生程度は「やや少」から「平年並」となっています。

今後は、防除暦に基づく定期的な薬剤散布(7月下旬から9月上旬にかけてはおよそ15日に1度)を行い、予防に努めましょう。なお、病原菌や害虫の薬剤抵抗性獲得を抑えるため、使用する薬剤は適宜ローテーションを組みましよう。

表2 りんご病害虫の発生状況
(宮城県病害虫防除所巡回調査, 令和3年7月1,2,5,6日)

斑点落葉病	やや少
ハダニ類	平年並
アブラムシ類	やや少

☆ 6月から8月は「農薬危被害防止運動」期間です。農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。